

# ある弥生人一家の一日

カドクロムラの朝と夜

「弥生時代」とは、どんな時代だったのでしょうか。ひと言ではなかなか説明しにくいですが、米作りが伝わったことで、縄文時代とは暮らしが違ったことは確かかなのですが……。

「じい」に紹介するのは、安来市門生町黒谷の「カドクロムラ」とを付けました。時代は今から約一九〇〇年前、弥生時代後期の初めごろ。小高い丘陵に何軒かの住居が建てられ、一つのムラができていました。

彼らは「じい」何をしていたのでしょうか。平和に暮らしていたのでしょうか。ムラのある一家の一日を通じて、弥生人の暮らしぶりを想像してみよう。



門生黒谷川遺跡



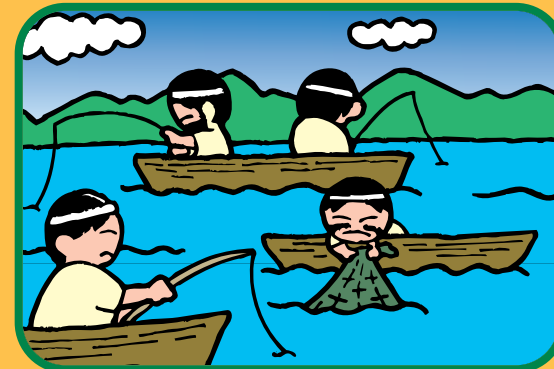
門生黒谷川遺跡・陽徳遺跡の復元想像図



「みんな起きてよー！」  
カドクロムラに朝が来ました。この家族はお父さん・お母さんと子供たち二人。今日も一日が始まります。ムラの男たちは海で魚を、女たちは田んぼで稲刈りをしなければいけません。ただお父さんは、今日はなんだか特別な仕事があるようです。



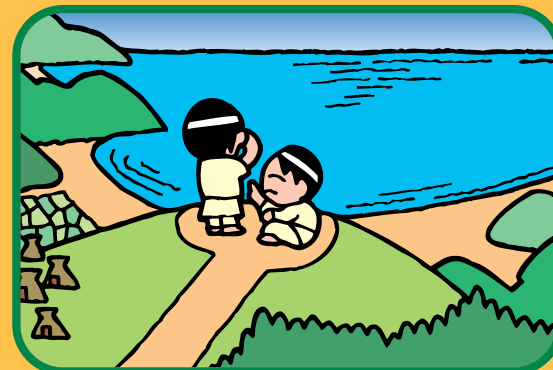
「行ってくるよー！」「いってらっしゃーい！」  
お父さんは見張りの順番が回ってきたので、谷の向こうの陽徳（ようとく）山に登ります。えっ、何のために？ 中海にはいってくる船を見張らなければなりません。実はこのあたりに、戦いの影が忍び寄ってきているのです。



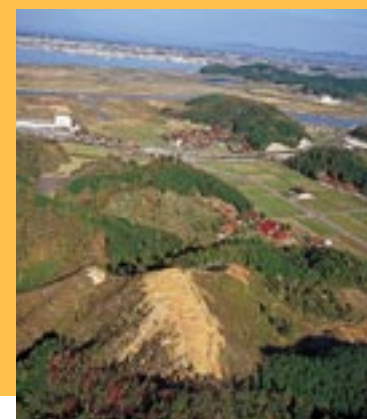
「さあ、釣るぞー」  
そのころムラの男たちは、中海に漁に出かけています。当時の中海は、今のような湖ではなく、まさしく海でした。豊富に魚が捕れていたと思われます。遺跡からは土鍾（どすい：網につけるおもり）が出土しています。



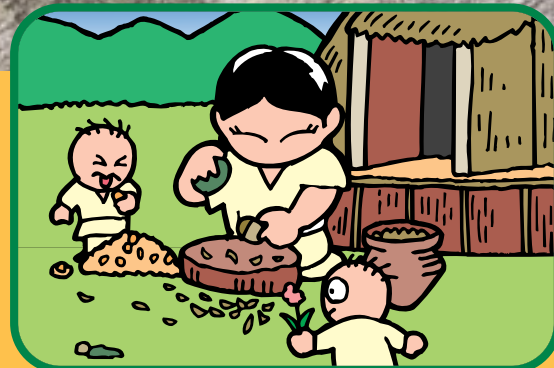
「よいしょ、よいしょ」  
お母さんは田んぼの稲刈りで大忙し。稲穂を一つひとつ、石包丁（いしぼうちょう）で摘むのです。秋の平野一面に広がった稲穂をみんなで摘んでいく光景は、どんなものだったのでしょうか……。



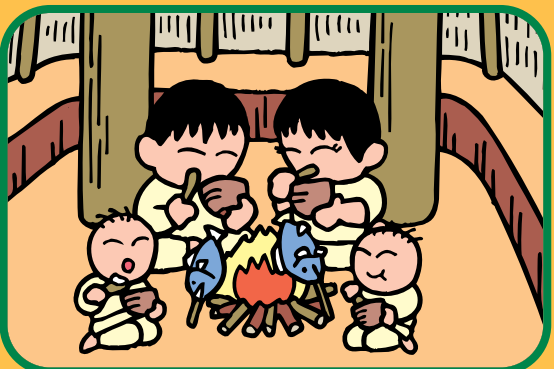
「うーん」  
陽徳山に登ったお父さんは、中海を見下ろします。「あやし、船は見えないぞ、それにしてもここからの景色はホントに絶景だなあ。でも、いつまでこんなことしなけりゃいけないうらら……？」この時期は、全国的に戦乱が始まった時代でした。邪馬台国（やまたいこく）に女王卑弥呼（ひみこ）が登場するのは、もうすこしあとです。



陽徳遺跡



「えい、えい」  
家の外では隣りのお姉さんが、採ってきたドングリの殻を叩いて割っています。弥生時代も縄文時代と変わらず、木の実を採集していました。米だけ食べていたわけではないのです。遺跡からは台石や叩石（たたきいし） 磨石（すりいし）が出土しています。



「いただきませーす！」  
今日も一日が終わりました。やっぱり家族そろっての夕飯がいちばん。どんなものが食卓を飾っていたのでしょうか？ 近づく戦乱の時代を前に、彼らはいつまで平和に暮らしていたのでしょうか。